



第 78 号
発行 筑紫丘高校同窓会
福岡市南区野間 2 -
13-1 〒815-0041
電 話 092(561)0662
F A X 092(561)0663
ホームページ <http://www.chikushigakoka-dousokai.com/>
印刷 西日本新聞プロダクツ



同窓会HP
「QRコード」

筑紫丘高校同窓会
公式LINE
アカウント

このたび、同窓会の活動をより多くの世代に届けるために広報委員会の尽力により、筑紫丘高校同窓会公式LINEアカウントが開設されました。不定期配信ではありますが、同窓会からのお知らせを皆様のお手元にお届けします。ぜひQRコードから登録をお願いいたします。



<https://lin.ee/hf3saAe>

「募金趣意書」を作成・配布

同窓会と記念事業実行委

創立100周年で事業概要、寄付方法など説明

筑紫丘高校同窓会と100周年記念事業実行委員会(森田一義会長)は昨年6月「筑高100年募金 募金趣意書」を作成、同窓生への配布を始めた。

同窓会本部は、令和9年の創立100周年に当たって

「人工芝敷設」「学校環境整備」「奨学金」の3事業を推進することを令和5年に決定。総額4億5000万円に上る事業費を同窓生からの寄付金などでねん出することになっている。

「募金趣意書」は、100周年事業に対する同窓生の理解を深め、実際の募金行動につなげてもらうために作成した。A4版4ページで、記念3事業の紹介や寄付の方法・寄付金控除の仕組みを解説する。

るほか、実際に切り離して使える専用の払込用紙も付いている。これまでに6000部を印刷し、同窓会事務局が把握している同窓生の住所あてに学年ごとに順次、郵送作業を進めている。また総会やイベントの際にも配布している。今後も新しい情報を織り込みながら改訂版の作成・配布を続ける。



「筑高100年募金 募金趣意書」は、100周年事業に対する同窓生の理解を深め、実際の募金行動につなげてもらうために作成した。A4版4ページで、記念3事業の紹介や寄付の方法・寄付金控除の仕組みを解説する。



「修猷館の人工芝を見学」「生徒のけがが減少」

金」は、すでに6000万円を超す寄付金が集まっている。ただ、令和2年に始まった学校の校舎改築工事は遅れが出ており、新体育館やグラウンド整備も計画より先にずれ込む見通し。今後は学校側と連絡を密にしながら、募金スケジュールの変更があれば、適宜発表していく。

同窓会本部の原田ゆみ子会長は昨年9月24日、修猷館高校の人工芝を見学した。グラウンドを案内した同校体育科の教諭は「5年前に人工芝を敷いて、生徒のけがが確実に減った」と話した。

人工芝設置に当たって、具体的な事務手続き作業の聞き取りに修猷館同窓会を訪問、併せて実際の人工芝グラウンドを見て回った。同校のサッカー・ラグビー場に足を踏み入れると、ふかふかとして天然芝よりも柔らかな感じがした。案内の教諭は「土の上ではとてもできないが、この芝なら転び方の練習もできるので、運動会前にはずいぶんやらせました」と人工芝効果を強調した。

一連の本校校舎改築工事では、令和7年初めから関連工事に着手した北棟校舎は、作業が遅れており、完成は令和8年末ごろになりそうだ。北棟は高校敷地の東端、同窓会館の裏手に建設される予定で、昨年初めに東側スロープの建設に入った。ところが地盤の改良工事が新たに

北棟完成は本年末に
基礎工事進む



北棟の工事(基礎土台部分)

必要なことが分かり、本体の工事開始がずれ込んだ。現在は敷地の基礎工事が進んでいる。

本校校舎の改築は、新本館が令和4年に完成、続いて南棟校舎が令和6年から使用を開始した。北校舎が完成すれば、その後は新体育館建設グラウンドの整備に入る。

記念事業 成功させましょう

会長あいさつ



原田ゆみ子会長

明けましておめでとうございます。皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします。母校の創立100周年もいよいよ来年となりました。少子化の進展や社会が大きく変

化する中、生徒たちがよりよい環境で学ぶことができるよう支援することは同窓会の重要な使命であると考えます。このため、母校の魅力をさらに高め生徒たちの学びを豊かにする教育環境の整備に寄与すべく、グラウンドへの人工芝設置事業、学校環境整備事業、奨学金事業の充実を100周年記念事業として計画し、募金活動を行っていま

す。とりわけ記念事業の中心である人工芝については、体育の授業や部活動、大運動会などでの生徒の安全性・快適性の向上のみならず、母校の魅力をさらに高め、さらなる発展に寄与するものと確信しています。奨学財団の公益事業にも認定され、税控除の対象となっています。募金目標額にはまだ隔たりがありますが、記念事業をなんとしでも成功させたいと思います。卒業生は、4万人を超えています。みなで力を



合わせ、目標を達成し、母校の記念すべき100周年をお祝いしたいと思っています。募金趣意書を順次、皆様のお手元にお届けしますので、後輩の子どもたちのため、母校のさらなる発展のため、皆様のお力をお貸しいただきますようよろしくお願いいたします。



不老貴規校長

こだわり持ち 筑高生たれ！

校長あいさつ

明けましておめでとうございます。皆様には日頃からご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございます。このたびは、令和7年度は、5月の翔丘祭、9月の大運動会等、数カ月の準備を要する行事も、生徒・職員の創意工夫で充実したものととなりました。翔丘祭や運動会は、毎年実施していますが、なぜか終了した時の余韻といえます。感動はいつも変わらぬ良さがありません。世間一般に言われる「ガオカ生」ではなく、本校関係者にしか分からない「筑高生」を生徒たちが感じる瞬間がある、と思っています。本校は、一般の公立高校なのですが、授業、学校行事、

部活動など、日常の学校生活が生徒によってより充実するといえますか、ある種の「こだわり」を持つて生徒が深く追究することで日常が非日常に感じられることがよくあります。「たかが高校時代」が「されど高校時代」になる瞬間に出会うことがあります。これは、卒業生も同じで、春の同窓会総会や秋の各支部同窓会総会に参加し、同窓生の皆さんとお話しさせていただいている時にも感じます。高校時代の話にとどまらず、現在でも、ある種の「こだわり」を皆さんお持ちで、人間的な魅力を感じさせていた

ことがあります。校舎改築も進み、今年中に北棟が完成します。創立100年を目前に、新しい本校の歩みへの期待が膨らむ一方、本校生徒には、本年もこれまでの100年と変わらぬ本物や本質を追究する「筑高生」であり続け、高校時代を充実させてほしいと願っています。

皆様には、本年も生徒への変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

高校時代を美術部で過ごし、現在は日本画家として活動しています。今回、第109回二科展に出品した《ひらけ初む》(日本画、F100号)で、SOMPO美術館賞・会員推挙をダブル



受賞作「ひらけ初む」と猪立山さん

猪立山三鈴さん(高45) 二科展W受賞



高校時代を美術部で過ごし、現在は日本画家として活動しています。今回、第109回二科展に出品した《ひらけ初む》(日本画、F100号)で、SOMPO美術館賞・会員推挙をダブル

受賞することができました。

「ひらけ初む」は、古語で「ひらきはじめる」の意。百合の椿の起源を探る研究を続けました。その後、食品会社で椿の起源を探る研究を続けました。その後、食品会社で椿の起源を探る研究を続けました。

く「新しい始まり」を描いています。私が大学での学びに植物遺伝学を選んだのは、高校の旧図書館で出会った立花隆・利根川進「精神と物質」に感銘を受け、植物が光合成で自らエネルギーを作り、枯れても土に還り命をつなぐ姿に心引かれたからです。

筑紫丘高校での日々や友人とのつながりも今なお私を支えてくれています。異なる道を歩む仲間がお互いを尊重し合えることは励みです。二科展受賞作は全国巡回展でご覧いただけます。「福岡展」1月27日〜2月1日 福岡市美術館(地元のため在廊予定)です。ぜひお立ち寄りください。

にぎやか運動会



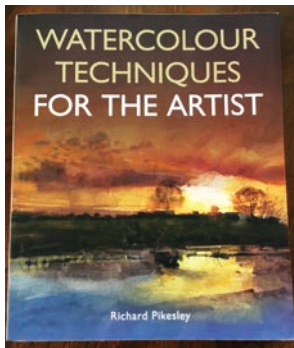
第78回の翔丘祭が昨年5月9、10日、筑高大運動会が同9月6日に開かれ、晴天にも恵まれてそれぞれにぎわった。



桐生先生の水彩アート

英国の芸術技法書に掲載

筑紫丘高校の美術科非常勤講師の桐生真紀先生(高37)の作品が、令和7年9月にイギリスで刊行された水彩画技法書『Watercolour Techniques For the Artist』(Crowood Press)に掲載されました。



出版されており、今回の刊行に際して先生の作品も掲載したいとの依頼があり、実現したそうです。掲載された桐生先生の作品「After the Storm II」は、激しい風雨に耐える百合の花

スコアも世代も関係なし! 「第2回筑高ボウル」が大盛り上がり

昨年8月10日、交流委員会は、植物への観察力や、花を描く教室、モチーフ選びに大きな影響を与えています。二科会の先生から頂いた「明るさの中に暗さを、暗さの中に明るさを」という言葉を胸に、植物の多様性と生命力に希望を重ねて描いています。



大会は、年代をシャッフルしたチーム編成で世代を超えた交流が生まれ、笑顔があふれた。大会後は、会場向かいの「二品香 雑餉隈店」で懇親会を開催。表彰式や恒例のじゃんけん大会を行い、参加者はテーブルを移動しながら活発に交流し、会話を花を咲かせていました。

第3回大会も来年開催予定です!皆様のご参加を心よりお待ちしております。本大会の開催にあたり、同窓生の皆様や開催会場から多くのご協賛をいただきました。御礼申し上げます。

や草を描いています。これは人生において、さまざまな困難や試練にさらされながらも生きる人間の姿を草花になぞらえたものです。この作品は一連のシリーズの1枚で、別の1枚は筑紫丘高校100周年記念のお祝いとして新校舎に寄贈されました。現在は本館1階事務室前に掲示されています。



掲載作品を囲む桐生先生(右端)と美術部OG

第33回筑高ゴルフコンペ 79名が参加して開催

毎年恒例の第33回筑高ゴルフコンペが昨年10月9日、いつまでも続く残暑のなか筑紫丘ゴルフクラブで開催された。高8から高55までの幅広い層の参加者は79名。優勝は竹下和宏さん(高38)。ベストスコアは藤田利孝さん(高48)だった。

北九州支部 ゴルフコンペ開催

北九州支部ゴルフコンペは昨年10月21日、門司ゴルフ倶楽部で開催された。17名のプレイヤーが、前週の選手権仕



様の難しいピンポジションに挑戦。藤田利孝さん(高48)が見事優勝した。

支部だより

- 各支部総会状況(令和7年度)
- ▽首都圏(11月8日、東京ミッドタウン六本木) 490名
- ▽関西(10月18日、ホテル阪急レスパイヤ大阪) 82名
- ▽北九州(11月15日、小倉飯店) 20名
- ▽熊本(7月27日、キッチンYOU) 17名
- ▽大分(5月10日、禰楽) 12名

令和7年9月
福岡県
大野城市長選挙
当選おめでとう
堤 かなめ(高31)

計報

府内洋一(高25) 常任幹事、令和7年11月逝去。

7年度総会開く

昨年6月、930名が参加



令和7年度の同窓会定期総会・懇親会は6月7日、930名が参加して福岡国際会議場で開かれた。



総会後の懇親会では、祭りをイメージした会場に実行委員長が「みこし」に乗って登場したほか、祭りの屋台さながらの飲食ブースも立ち並んだ。中でも庄巻はマグロの解体ショーで、周囲には人だかりができて大いに盛り上がった。

コロナ禍で中止となった過去の総会での賀寿対象者を改めてお祝いする「賀寿ついでいいとも!」では記念品贈呈、写真撮影が行われた。

「ガオカでようろうもん」

7年度総会実行委員長

藤田利孝 (高48)



今年度の同窓会はいつとつじやない。3つの都市、3つのテーマで、それぞれの地域や実行委員メンバーの自主性を大切にして、準備を進めました。私が実行委員を務めた福岡での総会テーマは「ガオカでようろうもん」。

この大役を引き受けてからは、これまで、この同窓会の伝統をつなげてくれた、歴代の先輩幹事の皆さんの苦勞をひしひしと感じる日々でした。しかし、飲み好きな実行委員の仲間と話していくなかで、「ガオカ出身の美味しい飲食店の皆さんに店出いただき、美味しいおもてなしで喜んでいただく」と決まってきました。企画がどんどん進みま

き届かない点もあったと思います。温かく見守っていただいたこと、本当に感謝しています。これから同窓会幹事が回って来る若い年代の皆様に伝えたいことは、「同窓会活動って面倒くさいかもしれないけど、一歩足を踏み入れたら、一生の宝物を得られるよ」ということです。私自身も、昔から知っている同級生の違う一面を見られて、同窓会に関わり

「いざー筑高」8年度総会実行委員長 前川健太 (高49) いよいよ創立100周年を目前に、今年の第99回総会は、ついに母校で開催されます。今年のテーマは「いざー筑高」。「いざ」とは心を合わせて、新たな一歩を踏み出すときの言葉。そこには挑む勇氣

と、再会への願い、そして母校への誇りが宿ります。あの日の坂道、放課後の風、笑い声がこだまする校舎。あの頃と同じ空の下で、再び集う日がやってきます。「日本守護」「日本開拓」「日本創造」―校歌に思づく志を、今こそ次の100年へとつなごう。幹事一同、心を込めて準備を進めています。どうぞ奮ってご参加ください。筑紫丘で、お会いしましょう。

「東京研修」が、今年度も7月30日(水)〜8月1日(金)の3日間の日程で実施されました。東京研修は、生徒の視野や知見を広げる目的で毎年夏休みに行っており、今回は185名が参加しました。滞り期間中、生徒たちはいくつかの班に分かれて大学や企業を訪問したほか、夜には首都圏在住の同窓生・同窓社会人との交流会にも参加しました。大学で行われている最先端の研究に触れたり、国内外で活躍する先輩たちから直接話を聞いたりすることで、普段福岡では見られない社会の一端に触れることができ、福岡の外に広がる世界に意識を向けることもよい機会となったようでした。

宴座

3年前の春、母校に赴任してすぐ校内を巡り、高校時代の思い出が鮮やかによみがえりました。生物の実験や授業、また教育実習でお世話になった旧生物実験室、準備室。私が在籍時にあった九重や霧島のガイドブックが今もある山岳部の部屋。山岳部の歩荷練習で何往復もした理科棟の階段。歩けばそこかしこ思い出が溢れ、懐かしさでいっぱいになります。

私が生まれた頃は第2次ベビーブームで今では考えられないくらい子どもの数が多く、高校進学希望者が高校の募集定員を上回るほどでした。そのため、公立高校も毎年、募集定員を増やし、私が入学するときには普通科10クラス480名でした。理数科はまだ設置されておらず、私が在学時に理数科教室の建設工事が行われていました。今、旧校舎の教室に入ると、よくこの広さで48人機を並べて学んでいたなと思います。

同窓生の皆様一人ひとりに筑高の思い出があり、それは校内の至るところに残っていることでしょう。旧校舎や体育館に入ることができるのもあとうずか。令和8年度の同窓会定期総会は講堂で、懇親会は体育館で予定されています。ぜひご出席ください。そして令和9年度の創立100周年記念行事に向け同窓生の皆様のご支援、ご協力のほどよろしくお願い致します。



「ガオカ」でようろうもん。これは今年の同窓会定期総会のコンセプトです。私も「ガオカ」でよかと思っています。これまでも出身校を聞かれた際は「ガオカ」ですと言ってきました。「ガオカ」で学んだ思い出など、これまでの人生を簡単に振り返りたいと思います。

生まれも育ちも南区大楠町100名が学んできました。九州松下電器と自衛官、看護師が3大人気職種で、4年間、共に疲れた体に眠気と闘いながら勉学に励んだものです。その間、全日

街の安全安心を守るために

同窓会副会長 渡邊 達哉 (定時18)

の皆さんとは同じ教室を使う者同士の親近感から「交換日誌」なるものを下駄箱を介して心の交流を図ったことが思い出されます。特に夜間で苦勞した思い出はなく、学校が楽しみで、休日などはキャンパスに行くなど私なりに青春を楽しんだ気がします。卒業後は「何か社会のため

街でした。昼間はパチンコ店や映画館、レストランくらいが営業するなど閑散としていますが、ネオンが灯る頃になると全く昼とは違った中洲の顔が出現します。中洲大通りは飲み客で混雑し始め、午後10時ごろから酔っ払いや喧嘩などの110番が次から次に入電、特に休み前の金曜日(いわゆる花金)は、翌日の朝まで一睡もできずにその処理に追われたことが思い出されます。



宗像署長時代(平成10年)

ちを教える私は夜間高校出身だ。これが警察社会の現実だ。学歴は関係なく努力したものが報われる組織だということ

「敵を知り己を知らば百戦危うからず」(いろんな人生の課題、敵について関心を



(青木雄志教諭 高66)

3年前の春、母校に赴任してすぐ校内を巡り、高校時代の思い出が鮮やかによみがえりました。生物の実験や授業、また教育実習でお世話になった旧生物実験室、準備室。私が在籍時にあった九重や霧島のガイドブックが今もある山岳部の部屋。山岳部の歩荷練習で何往復もした理科棟の階段。歩けばそこかしこ思い出が溢れ、懐かしさでいっぱいになります。

(松本暢隆 高43)